



# YOKOHAMA ASAHI ROTARY CLUB WEEKLY

## 「ロータリーに輝きを」 Light Up Rotary

2014-15年度 RI会長/ゲイリーC.K.ホアン

RI.D2590ガバナー/大野 清一

横浜旭RC会長/増田嘉一郎

国際ロータリー第2590地区

### 横浜旭ロータリークラブ

事務所 横浜市旭区二俣川1-2 後藤ビル2F  
TEL.045-365-3273  
FAX.045-365-3132  
Email:asahirc@titan.ocn.ne.jp  
〒241-0821

例会場 二俣川相鉄ライフ4Fコミュニティサロン  
例会日 毎週水曜日/12時30分~1時30分



2014年 10月22日 第2172回例会 VOL. 46 No. 16

- 司 会 副SAA 二宮麻理子
- 開会点鐘 会 長 増田嘉一郎
- 齊 唱 それでこそロータリー  
S L 秋内 繁

#### ■出席報告

会 員 数	36名	本日の出席数	31名
本日の出席率	93.94%	修正出席率	100%

#### ■本日の欠席者

斉藤、二宮登

#### ■他クラブ出席者

二宮登 (横浜瀬谷 RC)

#### ■ビジター

山本 悦子様 (横浜ベイ RC)

橋本 昌明様 (綾瀬 RC)

#### ■会長報告

1) ご存知のとおり吉原会員の奥様壽子様が、10月17日亡くなられました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

2) 10月24日は、世界ポリオデーになります。ロータリー財団への年次基金への寄附をお願いしている時に、タイミングが悪いような気がします。ポリオデーにちなんで、ポリオ撲滅のための協力もお願いしておきたいと思えます。ポリオとは日本語で急性灰白髄炎といい、ロータリー創始80周年、さらには100周年とポリオ撲滅のための基金が実行されましたが、未だ根絶することができず、逆に新

たな発症国が発生しており、ポリオ撲滅はロータリーの悲願ともなっております。今年3月1日にポリオ予防接種チームがパキスタンのカイバル地区で襲われるという事件も起きたとのことであり、単なる奉仕とは異なり、宗教的、政治的にも困難な課題を抱えているようです。99%撲滅できたとはいえ、あと少しが最も難しいと言われていています。大野ガバナーは2590地区から、国際ロータリーの0.4%以上ということで、今年度1,000万以上の寄附をお願いしたいとのことです。ロータリー財団委員会から改めてお願いがあるとは思いますが、お一人5,000円を予定しておいていただければと思います。

3) 10月23日は二十四節気の霜降になります。字のとおり、露が冷気によって霜となり降り始める頃ということです。秋が一段と深まり、朝晩の冷え込みが厳しくなり、日が短くなったことが実感できる時期です。山は紅葉で彩られます。この日から立冬までの間に吹く寒い北風を「木枯らし」と呼びます。秋の夜長をお楽しみ下さい。

4) 今年度大野ガバナーの地区方針の中に、ロータリーデーを開催して、ロータリーの地域社会への奉仕活動にインターアクトにも参加して貰い、今の地域からは勿論のこと、若い人にも将来入会するように働きかけるとあ

りました。10月19日の区民祭りへの参加をロータリーデーとして、社会奉仕委員会と災害対策委員会による展示と、有志による武者行列と、屋外ステージではマグナム小林のバイオリン漫談と、もり沢山の内容で参加しました。

残念ながら、横浜商大高校インターアクトクラブによる募金活動は、行えませんでした。ロータリーの宣伝は十分できたものと評価しております。ご協力いただいた会員の皆様に心から感謝します。ロータリークラブの広報活動の効果はどのように測るのかという、従来から議論されてきた難解な問題があります。その答えの1つは、会員増強となるのであり、このロータリーデーの究極の目標も将来をも含めた会員増強にあるのだとガバナーは言っておりますが、当日の現場での感触からは、直ちに効果は表れておらず、長い目で見てもらうしかなさそうです。

#### ■横浜ベイ RC よりご案内

横浜ベイ RC 山本 悦子

障害のある人たちのコンサート、横浜みらいミュージックコラボ2014「音楽で生きている」のご紹介をさせていただきます。

全員が障害のある人のライブパフォーマンスがやがて社会を変えていく。

日時 2014年11月5日(水)

場所 はまぎんホール ヴィアマール

料金 2,000円

どうぞ宜しくお願いします。

#### ■青少年奉仕・IAC委員会 佐藤 真吾

11/2,3に開催されます横浜商科大学高等学校文化祭でのバザーへの献品の最終お願いです。会員の皆様ご協力お願いします。

#### ■区民まつりのお礼メール 兵藤 哲夫

旭区地域振興課より区民祭りのお礼のメールが入りました！

区民まつりには大変お世話になり、有難うございました。また暑い中の武者行列お疲れ様でした。慣れない事で時間配分ですとか、休憩時間の確保など不手際も多々あったと思います。長時間暑い中甲冑を身に着け重労働の皆様をお願いしてどれほどお疲れかと思ひ

ます。どうぞ皆様によろしくお伝えください。区長はじめ振興課一同、また何より区民の皆様が喜んで下さっている様子が嬉しいことでした。

#### ■5分間情報「出席について」

研修・情報・広報・IT委員長 関口友宏

地区のアンケートによると、ロータリーの哲学・ロータリーの歴史・職業奉仕とは何か・ロータリーの目的・四つのテストなどが、勉強したいことの上位になっているようです。

本来、入会時にしっかり情報提供されるべき事柄が多いようで、いかに最初の入会時の情報提供が不十分であるかを物語っています。

ロータリーを知り、何をすべきか、どう行動すべきかを考えることにより、やり甲斐を感じ、参加意識が高まるのではないのでしょうか。これがロータリー情報の目的だと思います。在籍3年未満の会員を対象に、研修会を予定しています。

さて、出席のことですが、例会時間の60%以上の出席をもって例会に出席したものと見なされ、メイクアップは、例会の前後14日間と規定されていることは、皆さんご承知の通りです。また、年度の各半期間において、メイクアップを含む出席率が50%に達し、ホームクラブの例会又は、行事に少なくとも30%出席しなければならず、連続4回例会に欠席し、メイクアップが無いと会員身分が終了します。最近、海外旅行される方が増えましたが、14日以上にわたる場合、会員が旅行中他国で例会に出席すれば、メイクアップ期間に拘束されません。

以上の他、地区大会第1日目に行われる「地区指導者育成セミナー」に私が出席しますが、「クラブが抱える問題」「日頃抱えている素朴な疑問」等がありましたら、代わって質問してきますのでお申し出下さい。

#### ■ニコニコBOX(会員敬称略)

橋本昌明殿(綾瀬RC) / 久し振りにお伺いしました。自宅は二俣川です。

増田嘉一郎 / ①横浜ベイRC山本様、綾瀬RC橋本様、ようこそお越し下さいました。②ロータリーディ、区民祭りにご出席の皆様、

大変お疲れ様でした。充分ロータリーをアピールできたのではと思っています。③本日の卓話は、五十嵐防災対策ワーキンググループ座長がこれまでの検討状況を詳しく説明してくれます。ご理解の程宜しくをお願いします。

漆原恵利子／①横浜ベイRC山本様、綾瀬RC橋本様、ようこそ。②区民まつりお疲れ様でした。好天に恵まれ、人出も多かったようです。旭区地域振興課宮本さんから、皆様によろしくとお礼のメールがありました。

佐藤 利明／旭区民まつりにご参加の皆様おつかれさまでした。畠山重忠公をしのいでの武者行列に親子三代で参加してまいりました。大変つかれましたが良い思い出になりました。

二宮麻理子／旭区民まつりおつかれ様でした。

後藤 英則／五十嵐さん、本日の卓話よろしくをお願いします。楽し味です。

安藤 達雄／五十嵐さん、本日の卓話ごくろうさまです。よろしくをお願い致します。

佐藤 真吾／①旭ふれあい区民祭りにご参加の皆様、大変お疲れ様でした。②五十嵐さん、卓話よろしくをお願いします。

内田 敏／五十嵐さん、本日の卓話楽しみにしています。

太田 勝典／五十嵐さん、卓話楽しみです。

岡田 清七／五十嵐会員の卓話、クラブとしての防災よろしくをお願いします。

田川 富男／旭区民まつり、武者行列、大成功でした。旭ロータリークラブのよいPRになったと思います。

関口 友宏／綾瀬RCの橋本さん、ようこそいらっしゃいました。

倉本 宏昭／①山本様、橋本様、ようこそいらっしゃいました。②五十嵐さん、卓話楽しみにしていますが、むずかしい話はしないでね！

安藤 公一／①旭ふれあい区民祭りに御参加の皆様、お疲れ様でした。甲冑行列の音頭をとって頂いた二宮さん、兵藤さん、有難うございました。旭RCを区民の皆様に応援できたことと確信します。②五十嵐さん、卓話宜しくをお願いします。

福村 正／先日の旭区民祭りに参加いただきました皆様、ありがとうございました。

兵藤 哲夫／二宮さん、甲冑行列大変お世話になりました。有難うございました。

二宮 登／第25回旭ふれあい区民まつり、畠山重忠公生誕850年記念武者行列にご参加いただいた会員、サポーター家族の皆様感謝です。

五十嵐 正／①横浜ベイRCの山本様、綾瀬の橋本様、ようこそ。②本日はつたない話になりますが、お許し下さい。

市川 慎二／①区民まつり、皆様お疲れ様でした。②綾瀬RC橋本さん、横浜ベイRC山本さんようこそ。③五十嵐さん、本日の卓話宜しくをお願い致します。

■卓話 「ロータリーと防災」 五十嵐 正



今期増田会長より、災害対策のワーキンググループの座長を依頼されました五十嵐です。

今から5年前私がクラブ会長の際、会長テーマが防災でした。東日本大震災の2年前のことです。その際具体的な行動規範が出来ていれば、今回の震災でももう少しお役に立てた活動ができたのではないかと悔やんでおります。

私が会長テーマを考えた事は、自分がクラブ会長の際もし大災害が起きたらどう行動すべきか分からないと云うものです。多分自分も被災者であり、家族の事、従業員の事、仕事の事などなどロータリーどころではないと、立場もわきまえず投げ出してしまうのではないかと。それともう一つには、阪神淡路の大震災の時、全国からボランティアが集まり、支援の形が形成された、阪神淡路をボランティア元年と称されておるそうですが、昨日までは何の関係ももたない人々が、3日目にはボランティアとして組織的な行動に移されていた

る事実を知る時、ロータリーは何が出来るのか、災害時は I Serve とかの理屈ではなく、利用できる支援の形は何でも試みるべきではないかと考え、会長テーマとした事を思い出します。そんなやり残した思いから、今回の増田会長の申し出をお受けしました。

では、新潟中越大震災を事例に、皆さまにまずは災害時をイメージしていただきたいと思えます。この資料は会長時に 3 クラブ合同例会の際、第 2560 地区（新潟）の現地統括本部長の鈴木重孝氏に講演にお越し頂いた際頂戴した報告書から抜粋しました。

2004 年 10 月 23 日午後 5 時 56 分 M6.8 最大震度 7 が新潟県のほぼ中央にある山間部を襲いました。その時は旭ロータリーは、草

津に親睦旅行の際中で、丁度 6 時からの宴会を始めるところで、相当の揺れを感じたのを思い出します。資料によりますと余震が断続的に続き、発生から 1 時間半後に上空をヘリコプターが飛来し、被害の凄まじさが次第に映像やニュースで伝えられ始める処と思えます。発生後 2 時間半を待って県は自衛隊に災害派遣の要請。多分準備は進めてあったのでしょう。奇跡的に 30 分を待たずに自衛隊の第 1 陣が到着したようです。

その間、ライフラインは寸断され、電気や水の無いなか各地で孤立した状況でした。

実際にライフラインがなくなるとはどんな状況なのか。岩沼の一主婦の体験を少しお話します。

新潟中越大震災の事例（鈴木さんの行動から）

200410.23 pm17:56 M6.8 最大震度 7

17:56	震度 7
18:03	余震 震度 5
18:34	余震 震度 6
19:26	ヘリコプター飛来
22:30	新潟県 自衛隊災害派遣要請
22:50	自衛隊到着
2日目	余震の続く中情報収集開始（自転車等利用） 情報は少しづつ入るも、道路寸断で動けず。
4日目	RC各事務局による、RC会員安否確認開始 小泉総理被災地視察
5日目	RCクラブ単独での災害対策本部立上げ その日の内に、ガバナーより現地対策本部指揮の要請 メールにて緊急会長幹事会開催、情報交換スタート
6日目	2560地区ロータリー現地対策本部の立上げ、 2005年7月地区災害復興支援対策委員会へ 同時に外部アドバイザー（大学）と協力体制開始
7日目	銀行にロータリー災害対策専用口座開設
9日目	救援物資第1陣到着、各クラブ、地域施設へ配布 各方面からの様々な支援要請入手
10日目	仮説住宅検討開始
12日目	地区ローターアクト来訪、ボランティア支援

資料 1

インフラの突然のダウン  
電話、電気、水道、道路、交通機関  
公共サービス等→孤立

県の対策本部に電話をするが  
いつまでも話中でつながらない

可能な限り現地の被害状況を見て回り、何が優先で有効か、官の手の届かないことは何か。民間の施設を利用できないか、全ての相談事等に参加し、判断しなければならぬ立場に置かれた。

マスコミ等の注目の格差が支援物資の集中する、地域格差を生む深刻な事態に陥った。

対策本部の基本姿勢

- ① ロータリーとして独自の組織をもって支援する。
- ② 被災地行政と連携をとりながら支援する。
- ③ ロータリーの組織力を最大限に生かす。
- ④ 今後の地域防災システム構築の模範となる。
- ⑤ 活動の規範はロータリー「四つのテスト」に置く。

対策の主な柱

- ① 物による支援（衣料、食糧他）
- ② 心のケア（仮説住宅と地元民との交流会、歌謡コンサート他）
- ③ 人道的な支援（低所得被災世帯の中・高校生に義捐金の提供）

震災直後、当日すぐ断水。当日は家庭にあるポットのお湯を活用し、ストーブでの調理。買い置きの飲料水・お茶などで水分をとる。翌日より岩沼市で配られる水をもらいに行く。しかし、長蛇の列。娘と 5 時間並ぶ。翌日からは自衛隊・遠方市町村の給水車応援が着き 1～2 時間並ぶ。断水は 10 日近く続きました。私達は並ぶ気力も十分あるのでよいのですが、一人暮らしや老夫婦はどうしていたのでしょうか。当時はその思いやる気持すら出てきませんでした。自分自身の水や食糧の確保でいっぱいだった。停電は 3～5 日で復旧しました。我が家は夜はローソクのあかりでした。炊飯器は、たまたまプロパンガスのため鍋でお米を炊きました。しかし、オール電化のおうちは。レトルトやカップ麺、パンなどで空腹を満たしていたそうです。

中越地震の鈴木さんに話を

戻します。鈴木さんは、翌日余震の続く中、身の回りご近所、自転車で行ける範囲で情報収集をし、情報は少しづつ入ってくるけれど、道路が寸断され動きが取れない状況が数日続いたようです。4日目にして、小泉首相が視察に来ました。

ここからはロータリークラブの活動に絞ってまとめますと、4日目にクラブ事務局による会員の安否確認が始まり、5日目に鈴木さんのクラブでは単独に災害対策本部を立ち上げた矢先、ガバナーより現地対策本部設置の要請が届いたそうです。それから地区内の会長幹事宛てにメールにて情報交換を開始し、6日目には2560地区ロータリー現地対策本部を立ち上げ。同時に外部アドバイザーの大学の先生方と協力体制を作り運用を開始。9日目にして、救援物資第1陣が到着、各クラブ、地域施設へ配布を開始。同時に各方面からの支援要請への調整。発生12日目にして、地区ローターアクトの方々が支援に到着されたそうです。

この内容を見ますと、鈴木さんの個人的能力の高さがこれだけ迅速に対応できた所以のように思います。彼は震災の3年ほど前に、防災都市の先進地米国オレゴン州ポートランド市を視察し、都市機能の具体的なセキュリティシステムとロータリーを始めとした市民団体の活動を目にし、災害予防はもとより緊急時における高度な連携救助システムを視察しており、2560地区で防災セミナーを立ち上げて矢先の震災だったそうです。

2560地区の対策本部としての基本姿勢は、①ロータリーとして独自の組織をもって支援する。②被災地行政と連携を取りながら支援する。③ロータリーの組織力を最大限に生かす。④今後の地域防災システム構築の模範となる。⑤活動の規範はロータリー「四つのテスト」に置く。

また、対策の柱として3つ、①物による支援。②心のケア。③人道的支援。とあります。

中越大震災は、阪神淡路や東日本大震災に比べ、その規模の大小はともかく、行動規範としてはよく整理され素晴らしい内容と思い

ます。

これほど準備をしても、現実には県の災害対策本部等にはなかなか電話はつながらず、支援にしても何が優先で有効か、支援の地域格差。実に様々な問題が起こります。

では現実の問題として、阪神淡路大震災の教訓から生まれた事例から、防災意識を高める目的で開発されたクロスロードというゲームから、現実の起こり得る問題を紹介してみます。ご自分だったらどうするかいっしょにお考えください。

問① 我が家には3日分の保存食と水の準備があります。しかし、避難所では多くの家族が保存食や水を持ってきません。あなたは、その食料をみんなに分け与えますか？

問② 大地震のため、避難所に避難しなければなりません。家族同然の飼い犬「もも」(ゴールデンレトリバー)も、一緒に避難所に連れて行きますか？

防災は、一見すると人間対自然の対決に見えます。しかし、価値観が多様化した現代社会ではむしろ、人と人、葛藤調整、相互交渉、合意形成という側面が重要な意味を持ち始めています。

そこで本題になります。増田会長の目指す具体的な災害時におけるクラブの行動規範について話を進めてみたいと思います。

資料2は行動規範を考える上でのイメージです。赤色は震災直後、青色は1週間以上経過した時、そして緑色は1カ月位後とイメージしました。

ロータリークラブの支援活動は東日本大震災を例にとってみても、日本国内はもとより、世界中から支援が寄せられ、大きなパワーとなっていることは皆様もご存じの処です。関東大震災の時、国際ロータリーの支援の大きさに、ロータリーという組織の力に驚き、以後急速に日本各地にロータリークラブが誕生していったと聞いたことがあります。

中越地震では、全国より1億2千万円からの義捐金が寄せられているそうです。また今年度の地区方針をみても、引き続き東日本への支援は重点項目なあげられており、我がク

ラブも毎年支援を続けております。

しかしながら、ただ、ひとつ物足りなく思う処は、迅速性に欠けるように私は感じております。個々のロータリアンの中には、いち早く支援に動かれている方は多くいらっしゃると思います。I Serve からするとそれでよいかも知れません。しかしながら、まだ、組織としてやれることが沢山あるように思います。

我がクラブを見ても、今回の震災では、地区からの義捐金要請などはありましたが、クラブとして具体的に動きだしたのは震災後半を過ぎてからでした。以前、私が会長当時ガバナー訪問の際、ガバナーに地区では災害時の行動マニュアルはあるのか。被災したらクラブとしての対応規範みたいなものはないのか尋ねたことがあります。その時の回答は「ありません。まずは旭クラブから示してください。」とのことでした。

仮にクラブ周辺で被災したとしたら、多分クラブとしての機能は無くなる事が十分想像できます。クラブ会員というより個々個人の問題解決が最優先となります。クラブ役員といえども例外ではありません。ですが、先ほどの基本姿勢の③、ロータリーの組織を最大限に生かす。を視野に入れて考えてみると、すこし離れて所に仲間がいることに気づきます。健全な友好クラブに、本来我々が自身で行うべき役割を一時的に代わってお願いすることが出来るとしたらどうでしょう。そう考えると、被災地クラブの会長や役員は安心して、個々の問題に対応でき、貴重な時間を無駄にすることなく、迅速な地域支援へと結びつくのではないのでしょうか。

今回の東日本の災害の際、もし岩沼 RC と今のような関係であったら、私達はクラブとして、その日の内に対応策を模索したことになると思います。半年後なんてありえません。日頃の友好親睦の賜物であります。

そこで形として、友好クラブとの災害時相互扶助条項の締結というひとつの方法が浮かびあがってきます。

次に私達が被災したと仮定して、私達の出

来る事はなんでしょうか。それは情報収集です。この情報収集がとても大切な仕事です。今何が必要なのか、今まわりで困っていることは何か、そういった情報がとても大切な事となります。

では、その情報を出来るだけ簡単に迅速かつ的確に行うにはどうしたらよいのでしょうか。

そこで、クラブ内に情報を収集する手段として、緊急連絡網の整備が必要と云うこととなります。

緊急連絡網と云うと、イメージするのが、表にして上から順に連絡先を決めてするやり方は従来よくある手法です。そして連絡の方法として先ず浮かぶのが電話連絡です。

今回の東日本大震災では、音声通信の利用者が急増し、固定電話では最大 80%～90%、携帯電話では最大 70%～95%の発信規制が実施されたそうです。

また、パソコンにメールを同時発信する、メーリングリストというものがあります。ちなみに、防災ワーキングチームで、報告書などをパソコンで7名に送信した処、送信して全員が開封されるまで約1カ月を要しました。慣れないこともあるかもしれませんが、これでは役に立ちません。しかも、パソコンでのメールのやり取りは、機械の前に動かなくてはならず、緊急時には不向きです。

このように電話がつながりにくい一方、携帯電話におけるパケット通信では規制が最大でも 30%程度で、規制期間も音声通話の規制期間にくらべ一時的であったとされております。いわゆる Twitter、とか LINE といった SNS ソーシャルネットワークというシステムのことです。

そこで先々週の例会で会長から、携帯のメールアドレスの協力依頼が行われた所以であります。この携帯を利用したパケット通信による、緊急連絡網構築の検証を行っております。

この連絡網構築の候補として今検証しているアプリが「らくらく連絡網」というものです。これは無償のアプリで、全員に安否確認のアンケートメールが同時にでき、発信者は何人の人が読み、まだ読まない人は何人で誰かと

いう事もわかります。またアンケート結果は一覧で確認でき、緊急時ではなくても普段から、委員会召集の出欠、アンケート、賛否確認、そして安否確認などは携帯から簡単にとれるというものです。

ただ、無償のアプリの為、広告が入ったりして、見づらい面もあり、また、各自で登録をしていただく必要があります。この登録が今の所ネックのようです。

この連絡網が不幸にして運用される時のイメージは、仮に横浜市が被災したとしたら、私達は動けません。その際は岩沼 RC からの安否確認メールが登録会員全員に届きます。私達は、個々の置かれている状況を書いて安否確認メールに返信します。岩沼 RC では、返信内容から、今必要とする支援の内容を把握し対応にあたってください。また、返信の無い方も確認できますので、近くにいる会員宛に安否依頼のメールが届く。そんなイメージを想定しております。

また、携帯電話は電池が1～2日で無くなる可能性があります。電池があるうちの早めの対応が必須となります。

では、この連絡網に入れない会員については、出来れば身近にいるご家族に登録をお願いすることはできないかとも考えております。

ただどんな便利な方法でも、人が使い運用するものです。折角の技術も使わなければ宝の持ち腐れになってしまいます。普段から、連絡網を岩沼 RC とも共有して、折々に緊急時の対応訓練なども必要かと思えます。

防災はやらなくてはならないことが沢山あります。増田年度だけではとても出来ない相談です。ロータリアンとして出来る事の一番は、常に防災意識を持つ事、これに尽きるように思います。

■次週の卓話

11/12 一般卓話

鈴木茂之会員

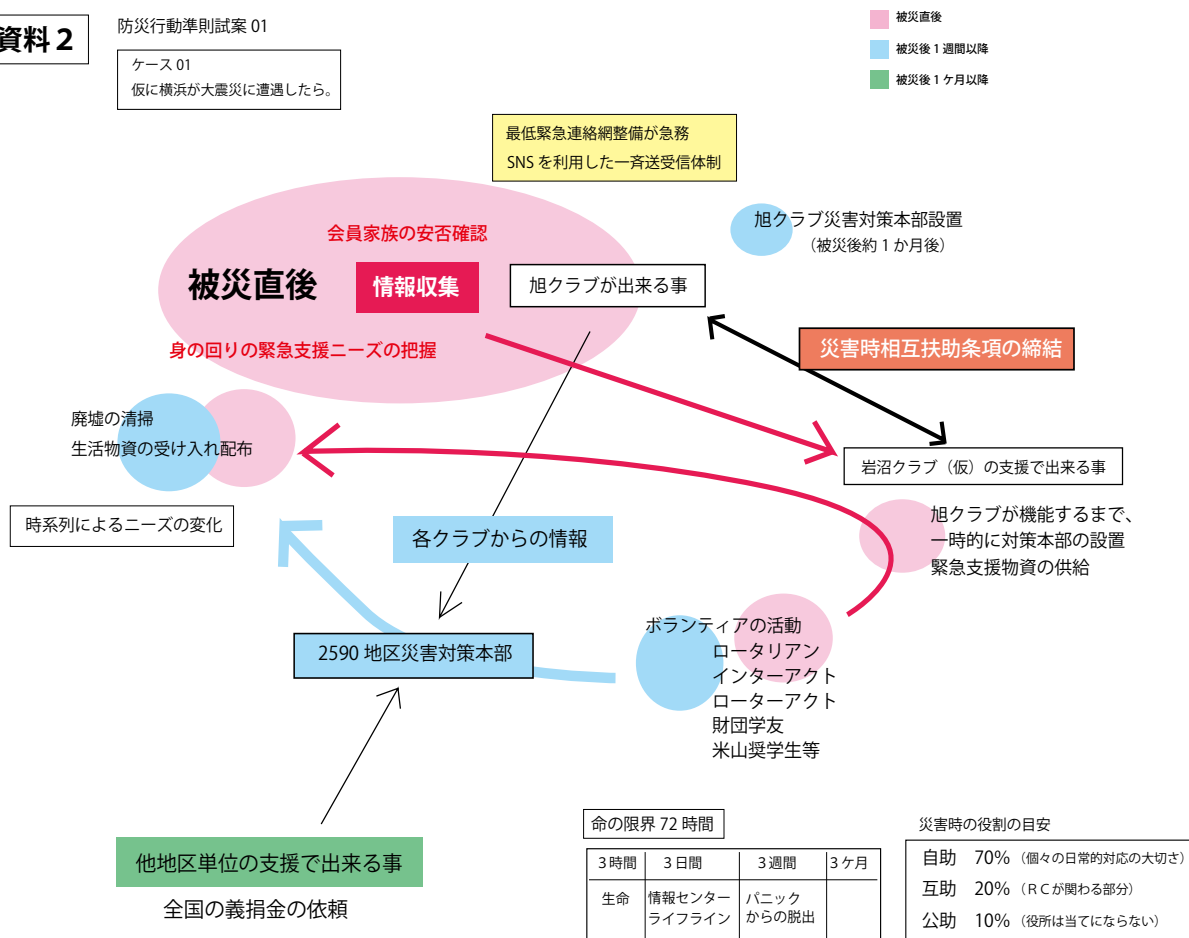
週報担当 岡田 清七

資料 2

防災行動準則試案 01

ケース 01

仮に横浜が大震災に遭遇したら。



平成26年9月度出席率一覧表

員数	会 員 名	ホームクラブ	他クラブ	出席率	員数	会 員 名	ホームクラブ	他クラブ	出席率	
1	秋 内 繁	100	25	125	21	岡 田 清 七	-出席規定免除-			
2	安 藤 公 一	100	0	100	22	太 田 勝 典	-出席規定免除-			
3	安 藤 達 雄	-出席規定免除-			23	太 田 幸 治	100	0	100	
4	青 木 邦 弘	75	25	100	24	斎 藤 善 孝	75	25	100	
5	千 葉 和 裕	75	0	75	25	桜 田 裕 子	100	0	100	
6	福 村 正	100	0	100	26	佐 藤 真 吾	75	25	100	
7	後 藤 英 則	100	0	100	27	佐 藤 利 明	100	0	100	
8	兵 藤 哲 夫	-出席規定免除-			28	関 口 友 宏	100	0	100	
9	市 川 慎 二	100	0	100	29	杉 山 雅 彦	100	0	100	
10	五十嵐 正	100	25	125	30	鈴 木 茂 之	75	25	100	
11	川 瀬 恵津子	-出席規定免除-			31	田 川 富 男	100	25	125	
12	北 澤 正 浩	100	0	100	32	内 田 敏	-出席規定免除-			
13	今 野 丁 三	-出席規定免除-			33	漆 原 恵利子	100	0	100	
14	倉 本 宏 昭	-出席規定免除-			34	矢 田 昭 一	-出席規定免除-			
15	黒 瀬 一 敏	-出席規定免除-			35	吉 野 寧 訓	-出席規定免除-			
16	増 田 嘉一郎	100	50	150	36	吉 原 則 光	-出席規定免除-			
17	松 本 英 二	75	25	100	37					
18	新 川 尚	100	50	150	38					
19	二 宮 麻理子	100	0	100	39	高 梨 昌 芳	名 誉 会 員			
20	二 宮 登	100	0	100	40	松 本 良 彦	名 誉 会 員			
例 会 日	3日		10日		17日		24日			平均
例会出席率	$\frac{31}{32}$	96.87%	$\frac{32}{33}$	96.97%	$\frac{31}{31}$	100%	$\frac{28}{33}$	84.85%		
修正出席率	$\frac{32}{32}$	100%	$\frac{33}{33}$	100%	$\frac{31}{31}$	100%	$\frac{32}{33}$	96.97%		99.24%